歳開

一 りんはたそこそこそいてそいてまの書るもん

定あるべき世よ定めたる歳月を

右 御感の御りゝ 御剣

東ろ沼田の中より光り河る

むのりかを人の考る 祈る

一 むりん鐘事

酒井雅楽頭 やふるこゝろ見すひ

いとし男ハ、

いとしまるゝ思

むりるまてもとゝやう叶

会保伊勢守 多田ひの行列

まくらの松

藪主計頭 ゆみかさるり

たのしむゆる

松平伯次郎

多門多之丞

神尾若狭守

堀江荒四郎

本多伯耆守

あるる思

つゝさりゝゝ

平井美濃守 御

まの参

宋津藩主傷書

小濱平右衛門

りゝりゝるまを

まるれてゝんよ

本多近江守

建部民部少輔

松平左近将監

今はむゝ

かゝりゝ

一 延享四年卯二月九日の夜外構田正門外ゝ新ゝ構内延

小西の風ゝ焼失の屋敷ゝ通

大え 諏訪因幡守

松平安芸守

松平斎宮少輔

相馬因幡守

阿部因幡守

小笠原左近

宋津信濃守

杉本左近

小倉美濃守

大田摂津守

永井伊賀守

落首

稲葉城中ち

流行火ちまち安藝にてまさしくこの人
相馬ゑやけくいのかちうしんぎん
火をもてはいゆくこんとの人のとく用慢
家の定りも火ちるのをふといりん
流行火こん名ハ高砂をみしやけ
とるり文用いるんきみ 俳
籠城ハ鬼よ残りてふくおこの
春雪の羽やもて安藝の廣しま

小笠原ち鬼やりれ二夕やしき
ゑし俳こゝもてゑくこけ之
宋津の羽ちちハふるとおよりり
風のつよをよ信濃まりよ
門ちりり強るかひるき折ゑる
ち作くをさちく用の鬼やけ
神ちハ指技のもんと強るまし
ま中ゑるみのりく指はる
板金とりんと七歳よまちん
やけ思いる井よ用防上下

側近ハ番所ヨリ大小共
露の相伴ヲ差出ス為ニ
文政二癸年十月廿日於
禁中御能ニ次第
翁　暮松新九郎
千歳　長命法印
三番叟　木下半右衛門
笛　八幡助右衛門
式三番
小鼓　幸　次郎
同　観世又次郎

同　仙石与次郎
大鼓　樋口石見守

大閤秀吉
弓八幡
ツレ　金春喜左衛門
ワキ　春藤宗右衛門
目付　宗良法宜
笛　小鼓　大鼓　観世又次郎　樋口石見守　佐田右京
ツレ　岩本雅楽
ワキ　宮菊次郎
甲田平刀

紀元
民部卿法印
新庄駿河守
長命甚六

大閤
芭蕉
ワキ　如丈

ツレ　安中
小　幸次郎　次郎
大　大蔵　平蔵
太　世阿

ツレ　竹丈
小　江戸中納言殿　台徳公
大　岩田利八

羽柴筑前守利秀
源氏供養
ワキ　如丈